



市民がつくる地域情報誌

第3号

2021.6

ととこ
の

tottoko
sanyo-onoda

山陽小野田

山陽小野田市を
深掘り！

この情報誌は、山陽小野田市の
「現在」を深掘りし、後世に伝えていく
ため、図書館創発会議のメンバーが
地域に出かけ取材したものを中心に
編集したものです。

CONTENTS

- 1 なわたの海苔屋さん
- 2 春のお大師さま
- 3 コミュニティカフェ wakayama
- 4 フォトギャラリー
- 5 中央図書館開館 25 周年記念セミナー
- 6 サビエル高校の日々
- 7 埴生てる
- 8 俳聖、厚狭の町をゆく
- 9 山陽小野田歳時記
- 10 取材地図・メンバー募集



みなさん、毎日の食卓で常連と言えば、納豆、漬物そして海苔ですね。今回は有明産に並んで有名な瀬戸内産の海苔を製造、販売している地元の海苔屋さん、縄田雅海苔(株)をお訪ねしました。

お歳暮、お中元には格好の贈答品の海苔ですが、特に新海苔の季節は大忙しです。新茶は春ですが、「新のり」は12月中旬だそうです。地元のみなさんや常連客の方は、毎年予約注文されているとか。「新のり」には「新のり」のシールが商品のパッケージに貼られます。なわた海苔で扱っているのはすべて国内産ですが、「新のり」の他にも、「山口産」のシールが貼ってあるものもあって、お土産に最適ですね。ちなみに、「新のり」のシーズンが終わっても、「乾海苔」自体は冷凍保存されていますので、1年中おいしい海苔が食べられるそうです。

みなさんは海苔にはどんな種類があるかご存知ですか？ 大きく3種類あります。「乾海苔」「焼きのり」「味付けのり」です。「乾海苔」は海苔を薄く延ばして干したものの。食べる時は炙ってから食べます。「焼きのり」は巻き寿司に使う海苔、「味付けのり」は「焼きのり」に味をつけたものです。なわた海苔の工場では海苔を焼く機械と乾燥機がそれぞれ2台あって、「生のり」を「焼きのり」に加工する一次工程には5時間半ほどかかるそうです。これを海苔の火入れといいます。年間の



生産量は1ケース全形の海苔3600枚入りで、600～700ケースです。海苔の原料は山口以外にも、佐賀、福岡、熊本から仕入れています。



現在の会社の創業は昭和20年で、現在3代目の社長さんです。会社のメンバーは社長さんの縄田憲之祐さん(52歳)の他に、工場勤務の方8名、事務所勤務の方6名で、老舗なのに、意外や、みなさん30代の子育て世代の方たちなのどうか。取材を取り次いでくださった坂井さんは、以前に祖父母が小野田の刈谷で海苔漁をしていて小さい頃から海苔作りを見てきたと言われていました。社員さんたちの海苔♡を感じますね。

出荷された海苔は、高泊本店、中川店の他、山口、大分、北九州、広島などのスーパーや道の駅で売られています。もちろんネット販売もしています。

現在、30種類ほどの製品があります。いろいろな海苔の詰め合わせは2,000～5,000円、全種類入り10,000円も。海苔の他にひじき、青のりもあります。海苔は、本当にお茶に似てますが(海のお茶?)、1番つみの海苔もあるそうです。これを使った製品が「香ばし醤油海苔」と「カットエース」おすすめです。それから「キズのり」お買い得です。

今や世界に飛躍する日本食ですが、お茶、お酒、海苔も一緒に海外へ進出して行くことでしょう。小野田の海は関門海峡を越えて世界へ通じているんですから。



(文・まっし 写真・田中信)

海苔の注文、また海苔に関するディープな情報は、「縄田雅海苔」ホームページ (<http://nawata-nori.com>) からご覧ください。 ☎ 0836-83-2046

おすすめの1冊

『海苔と卵と朝めし』 向田邦子(著)



毎年、弘法大師のご入定日（命日）にあたる4月21日には、山陽小野田市の各地で「お大師さま」が祀られ、参拝された方へのお接待が行われます。

お接待でお菓子などが貰えるとあって子ども達で大賑わいの札所などで、町の皆さんに話を伺いました。

ニッポンの
ハロウィン!?

弘法大師をお参りするものとしては、大師の足跡をたどり四国八十八ヶ所霊場を巡る「四国遍路」や旧暦のご入定日に山口市で行われる秋穂八十八ヶ所霊場「お大師まいり」が有名ですが、山陽小野田市でも、弘法大師を祀るお堂や家庭が一年間の感謝の意を込めてお参りに来られた方にお菓子などを振る舞う風習「お大師さま」が、毎年4月21日に市内各地で行われます。

各地のお堂（札所）で日頃祀っているお大師さまを綺麗に飾りお供えをしたり、地域の集会所や最寄りの空き地にお大師さまを持ち寄ったり、自宅を開放してお大師さまをお披露目したりと、様々なお大師さまで賑わい、地域のご婦人たちが、お参りされた方を笑顔でお接待する光景が此処彼処で見られます。

お堂には札所の番号が付されているところもあり、今回は高泊の第三番をはじめ幾つかの札所を伺いました。第三十二番・第三十三番の札所として大師像を奉祀している江の内八王子神社の世話役の江本さん・橘野さんからは、「707年に創建された別府八幡宮や806年に開創された岩崎寺など、由緒ある神社仏閣が数多くある山陽小野田の地を、弘法大師が西国行脚の際に訪れたかもしれない。」との話をお聞きし、歴史の浪漫を感じました。



▲各札所のほか、仮設テントや自宅など様々な場所にお大師さまが祀られる。

また、お大師さまには民間信仰の側面もあり、「幼い頃に大病を患ったが、両親がお大師さまにすがる思いでお祈りすると完治できたことから、家でもお大師さまをお祈りするようになった。」など、ご利益についてのお話も聞かれました。

「ここのお大師さまは昔から眼に効くと言われている。」と教えていただいたのは、旦に八十年来お住いの藤井盛さん。「この辺りは江戸時代の末頃から血山として栄えて、人が集まってきた。その際、代々大事にしてきたお大師さまも一緒に移り住んできたのではないか。」とのこと。

持ち寄った十体近くのお大師さまが祀られていた地区もあり、日々の暮らしを見守って下さる身近な存在として、お大師さまが地域に根差していることを強く感じました。



▲祠の像や掛け軸、各家庭で所蔵のものなど、お大師さまも様々。

四国遍路のお接待には、お遍路さんは常に弘法大師と共にいる「同行二人」という考えから、お接待することが弘法大師への功德になるという意味や、自分の代わりにお参りを託すという意味があると言われています。また、四国全土に渡る八十八ヶ所霊場の巡礼が心身共に過酷な旅であることをよく知っている四国の方々は、お遍路さんを応援する意味を込めてお接待をされているそうです。

子どもにお菓子を配る風習には、欧米のハロウィンがあります。仮装した子ども達が「トリック・オア・トリート（お菓子をくれなきゃ、いたずらするぞ）」と言いながら家々を回ると、大人たちは「ハッピー・ハロウィン」と言ってお菓子を渡します。これは、仮装した子どもに紛れて悪霊が家に入らないように追い払う魔除けの意味があります。同じような風習でも、背景の文化や意味が違って面白いですね。

国際交流が進んでいく中で、日本のおもてなしの心が世界からも注目を集めていますが、お大師さまのお接待にも、地域の人々の優しさが溢れています。春のお大師さまは、山陽小野田にいつまでも残ってほしいと思う心温まる風景です。

（文・写真：山田幸司）



【おすすめの一冊】

『はまりの木』 夏川草介（小学館）

毒舌な民俗学者と弟子の女性大学院生の名コンビが、日本各地で民俗学を探り、「神様」を探す旅を描いた短編集。お遍路さんを描いた短編「同行二人」も収録されています。

とにかく、面白いことをしたい！

コミュニティカフェ wakayama



小野田の公園通りのすぐ近く、緑あふれる須恵健康公園のななめ向かいにあるお店「コミュニティカフェ wakayama」をご紹介します。外観は、大人っぽいお酒が飲めるライブハウスという感じ。店内にはステージや照明、ピアノ、カウンター、テーブル席などがあって、ライブやコンサートも毎週末開かれています。

ところが wakayama は、それだけのお店ではありません。お昼には家族連れ、高齢の方などが気軽に立ち寄れるランチスポットに。日替わりランチのほかに、焼きカレーやワッフルなど、メニューも豊富でずし、かわいい雑貨もあります。



マスターの穂本さんは、お店を小野田の文化の発信地にしたいということで、これまで洋楽だけではなく、クラシックも落語もトークショーも、ビールの試飲会などなど幅広いジャンルのいろんな企画をされてきました。

そもそも wakayama は 44 年前 に、
マスターのお父さんがスタートさせたお
酒屋さんでした。2009 年に今のマスター
さんがお店を受け継ぎ、2011 年にリカー
ショップ&コンビニに改装、奥さまお手製
のカレーやコーヒーなどが店内で食べられ
るイートインのコーナーもできました。



▲昭和 51 年頃の wakayama

それから 2015 年にステージを備えた今のお店がリニューアルオープンし、
こうして紆余曲折、この 10 年で徐々に「コミュニティカフェ」へと発展し
てきました。マスターさんの熱意に加え、奥さまと 3 人の子どもたち、地域
の wakayama ファンの協力なくして実現はありえなかったのではないかと
思います。

これまでもお店の枠を飛び出して、若山公園での音楽フェスティバルなど
のイベントを主催、今年は 10 月にサンパークでハロウィン祭を市の商工会
議所と企画中です。また、今年はオリンピックに合わせて大画面で試合観戦
も。こじんまりとした小野田のコミュニティカフェから広がる deep で大き
な地域起こしを、これからもご期待ください。まずは居心地抜群のお店のド
アを開けてみることをお勧めします。 (文：まっし)



▲《隔月開催されている wakayama 読書部《since 5.2019》

追加レポート コミュニティカフェ wakayama は令和 3 年 4 月に 10 周年を迎え、記念イベントが 5 月 1 日（土）に開催されました。6 月 5 日（土）、代表の穂本真一さんに、「コミュニティカフェ」という名称に込められた思いをお店で伺いました。

お話によると、ライブ活動は当初から店内で開催されていて、wakayama という場所が、食べながら、飲みながら、またライブを楽しみながら、様々な人々が会える場所として、また、地域住民が集う場所になればという思いで運営されてきたとのこと。お店での出会いが新たなエネルギーとなり、またそれが連鎖してまちの元気につながってほしい、と熱っぽく語られました。

6 月 6 日（日）には新企画、「よしもと山口県住みます芸人」をゲストに「お笑いライブ Vol.1 僕たち面白いんです」が開催。奥様の貴子さん手づくりの料理も美味しい！と評判。『とにかく、面白いことをしたいんだ』と穂本さん。今後、どんなアイデアが飛び出してくるのか、目が離せません。

（文：山本）



▲Wakayama 音楽祭
(2017.10.9)



▲よしもと山口県住みます芸人
お笑いライブ vol.1 (2021.6.6)

コミュニティカフェ wakayama

代表 穂本真一（あきもと・しんいち）

山陽小野田市港町 8-3

TEL 0836-83-6761

E-meil cls-wakayama@mx52.tiki.ne.jp



フォトギャラリー
Photo gallery

～本山岬公園・くぐり岩～



撮影／友田恭太(ともだ・きょうた)

山陽小野田市在住の写真家。

Jリーグ公式フォトグラファー。写真講師として写真の指導も行っている。

2015 年より Jリーグ公式フォトグラファーとして県内公式戦の撮影を担当

2017 年 日本イタリア合同写真展「Paesi」出展(山口市)

2018 年よりモデル撮影会「portrait.cam(ポトカム)」運営

2019 年 日本イタリア合同写真展「Spoleto incontra Yamaguchi」出展(伊)

その他写真展出展多数。 ツイッター:<https://twitter.com/kyotatomoda>

モデル／杉田佳穂(すぎた・かほ)

宇部市在住のモデル。

アイドルグループ「オレンジ☆みるふい〜ゆ」の元黄色担当。

高校時代はダンス部で活動、高校野球のチアも経験。

2020 年より portrait.cam(ポトカム)にて撮影会モデルとして活動。

好きな食べ物にはラーメンとイカそうめん。好きなスポーツはダンス。

趣味は映画鑑賞(主に洋画)。ソビ映画、ホラー映画、恋愛系)

ツイッター:<https://twitter.com/kaho0812>

中央図書館開館25周年記念セミナー開催



2020年に山陽小野田市立中央図書館が開館25周年を迎えたことを記念して10月25日（日）に開館25周年記念セミナーが中央図書館で開催されました。

ボランティアの皆さんのご協力の下で行われ、とても盛況だった当日のイベント等を紹介します！

中央図書館ゆるキャラ『いゅ〜ぽん』誕生！

25周年記念事業として、中央図書館のゆるキャラが募集され、応募作品の中から、山陽小野田市在住の寶田千紗都（ほうだちさと）さんの作品がグランプリを受賞しました。

本好きなお子さんの竜が、竜王山に飛来するアサギマダラの柄のバッグに本を抱える姿は、とても可愛らしく親しみが湧きますね。

新しいゆるキャラの名前募集にも約200件の応募があり、審査の結果、『いゅ〜ぽん』に決まりました。

これからの活躍が期待される新キャラクターをみんなで温かく応援しましょう。がんばれ、『いゅ〜ぽん』！



▲25周年で誕生した
ゆるキャラ『いゅ〜ぽん』

絵本で笑顔！フォトコンテスト

記念セミナーでは、第5回『絵本で笑顔！フォトコンテスト』の表彰式も行われました。

今回のコンテストのテーマは、コロナ禍を踏まえて、『ステイホームで、絵本を楽しんでいるお子様やお孫さんの様子』。

多数の応募作品の中から、宇部市在住の永沼光代さんの作品がベストスマイル大賞に選ばれました。

絵本の続きを夢見ているような愛らしい光景は、写真を見る側も笑顔にしてくれますね。

絵本は、子ども達の心の栄養。

これからも、たくさん絵本を読んで楽しんでね！



▲第5回コンテスト
ベストスマイル大賞作品

『ことばの化石』大集合！

25 周年記念事業では、本の中の名文句や、お気に入りのフレーズを書き込んだ『ことばの化石』づくりワークショップが開催され、本と一緒に展示されました。

色とりどりの化石は、作品を連想させる絵を描いたり、個性的な文字で書かれていたり、興味深いものばかり。

名文句や名フレーズから感じた気持ちを風化させないよう結実した『ことばの化石』は、私達の心の奥にも眠っているのかもしれません。



▲当日展示された
『ことばの化石』

FM サンサンきらら公開生放送！

屋外では、FM サンサンきらら（現「FM スマイル ウェ〜ブ」）特設スタジオが設置され、『どこでもワープ FM、図書館からビブリオラジオ』と銘打って公開生放送が行われました。

出演者は、藤田市長をはじめ、長谷川教育長や各コンテンツの受賞者、ことばの化石ワークショップ参加者、山本館長など、バラエティ豊富なメンバー。

それぞれの話題も、おすすめの一冊や、受賞作品に込めた想い、本との関わり方など多種多様で、とてもユニークで面白い生放送でした。



紹介された一冊▶
『ガソリン生活』
伊坂幸太郎 著



この他にも、開館 25 年の歩み写真展やハーブの苗など記念品のプレゼント、書庫の開放、新型コロナ退散を祈念したアマビエコーナーなど、趣向を凝らした各種イベントは好評を博していました。

地域の方々に愛され続ける中央図書館。

これからも地域の元気発信拠点として、末永く活躍していくことを願っています！

（文：山田幸司）

サビエル高校の日々

発行人の揺籃「あとからジワジワ効いてくる」

◆たのしい通学生

1975 年にサビエル高校の 1 年生となった。自宅のある宇部の端っから 1 時間ほど電車で揺られれば小野田駅である。そこから 20 分くらい歩いて通学していた。

朝礼は週に 2 度あった。1 日はディアス校長の訓話。入学した年は国際婦人年で、それにまつわるお話が印象に残っている。あと 1 日は全員に楽譜が配られ陽気なマグダレナ先生の指導で歌を歌うコーラス朝礼。(そこは小磯良平画伯「斉唱」の少女たちを思い浮かべていただきたい……ダメ?)。賛美歌も歌ったが記憶に残っているのはメキシコの歌「シェルト・リンド」。楽しかったなあ。

当時は正課クラブという授業枠強制部活動があった。第一志望の謡曲クラブが人が集まらず中止になったので第二志望の英会話クラブに入ったのだが、夏休み明けのバザー(文化祭的な)で、シェイクスピアのベニスの商人第 4 幕(裁判場面)を演じた。私は高利貸シャイロック。古典英語長台詞に苦しむ。

放課後部活は写真部。中学から続けていた銀塩白黒写真紙焼きを行う。デジカメなどなかった時代で小遣いの大半が機材とフィルム代に消えていた。部活関連で読んだのが岩波新書『写真の読みかた』(名取洋之助著 1963 年刊まだ新本が入手できる)。写真はレイアウトとキャプションで伝わり方が全然変わってくることを頭に叩き込んだ。が、すぐに読書家にはならなかった。今は詐欺メイク自撮りというのが流行しているらしいが、当時私はたまに机の Z ライト(これがわかる人は古い)でのライティングを駆使して自撮りをしていた。あまりにもうまくできたのでバザーで展示したら、他校の写真部男子生徒たちが言った。「この写真のモデルを紹介してくれませんか」……えっと、君たちの目の前にはありますが何か。



◆授業と読書

岩波新書といえば、倫理社会のヒゲの神父様ルナ先生がテストの前に『人間はどこまで動物か』（アドルフ・ポルトマン著 1962 年刊これも今なお売られている）を読んでおきなさい、と言ったのでスナオに五十部誠文堂で買って読んで答案を書いたら良い点がもらえた。このあたりで読書するといいいことがある、と刷り込まれたのだが、すぐに読書家にはならなかった。



当時は大して本は読んでいなかった。というより私より多く読む子はいくらでもいた。長い小説はほとんど読んでなく上下巻を通して読んだのは唯一小松左京の『日本沈没』くらいである。現代国語の時間は「誰か読んで」と言われたとき大概手を挙げ毎回朗読していた。これは居眠り防止対策で起きている授業中は、姉の高校時代の『文章作法便覧』とかいった薄い副読本を読んでいた。文章を頼まれたプロセスを前置きとして長々と書くのは不細工なことだ、などと大事なことが簡潔に書かれていた。これも頭に叩き込んだ。図書室では、枕草子とか徒然草とか方丈記とか教科書に載らなかった部分を中心に赤い表紙の小学館の古典対訳を読んでいた。あと岩波新書。

◆昭和ポエマー少女

さくらももこが自分の高校時代の赤面ものの詩のノートのこと言及しているが、私もまた詩を書く少女だった。私の場合、長文をあまり読まないということは長文が書けない。詩は短い。入りやすい言語表現だと思う。



あの時代、少年少女詩人は普通にいた。浪人しているときにお金を出し合って2冊ばかりタイプ印刷の詩集を出した人たちを知っていたし、高校のときに個人詩集を出した人も知ってる。バンドやってる友人のオリジナル曲のために歌詞提供してた子もいた。ソフトボール少女だった姉でさえ寺山修司編集の少女詩集や中原中也詩集を持っていたくらいだ。

いっぱい読んで文学少女の城、文芸部など、敷居が高く畏れ多かったので、当時の学年誌に投稿をはじめた。最初に送った詩が選外佳作扱いで名前と題名が乗った。その次に送った詩が選者だった詩人の田村隆一氏の評とともに雑誌掲載され、学研からは図

書券を送ってきた。これに味をしめ、また何度か詩を送り、何度か掲載された。読んでなくても詩は書けるんだな、詩は図書券と交換できることもあるんだなと。

最初に掲載された詩は、短いので記憶している。こんな詩である。

***題**

「行く」

青い

みとじゅん線の列車は

一本つきり

きわみの駅に向かい

れいるのない地に行く

.....



16歳の宣言である。そのころ同級生に「みとじゅん」と呼ばれていた。姓名を続けて呼ばれるのはスヌーピーの飼い主チャーリーブラウンのようだが、わりと気に入ってた。悩みがないわけではなかった。年齢的に「圭子の夢は夜ひらく」(わかる人は古い)だと暗い人生の真っ最中である。60歳くらいまでは元気で生きるとあのころの自分に教えてやりたい。長丁場が待ってる、覚悟してかかれ、と。

たとえば彼氏と花火大会に行くのに着る浴衣を母親にねだる的な親孝行はまったくできなかったが、こうやって思い出を書いてみるとわりとリア充。基本ぐうたらな自分が高校皆勤だったのは、たぶん楽しかったんだと思う。

◆おそろべし『高3コース』

いつまでも高校生でいるわけにはいかない。国語(テストには長文は出ない)と化学(乙種危険物問題を解いて遊んでいた)以外はボチボチという学業成績の都合により進学先は限られる。とくになりたいものも思いあたらない。そのまま社会に出られる自分とも思えない。そんなとき、件の学年誌に、将来の適職についての択一式問診票みたいなものがついていて。書き入れて切手とともに送ると将来の適職が書かれて送られてくるというものだった。面白半分に送って見たらこう書かれて帰ってきた。「編集者」。本

をあまり読まない私が将来本をつくることは予言されていたのだ。おそるべし（今はなき）『高3コース』。だがそのときは「なにそれ？」と思ったきり忘れていた。

たくさん入力（読書）しないと、自分の考えがうまく言い表せない。アイデアを文章化するためには、もっと読書が必要だ、と痛感したのは、さらに進学して郷里に戻り就職してからのことである。私に足りないのは読書だ。会社の昼休みに図書館に行って本を選び、通勤の電車の中で年間200冊くらい読んだ。あるとき、どの小説にもビジネス書にも絵本にもノウハウ本にもすべて同じことが書いてあるようにみえてきた。

「本のなかに答えなどない、自分で考えろ」と。

わかった。さらに読もう。それにしても就職してからメガネをかけるようになるとは学生時代に勉強してなかった証明みたいだ。だが20代前半の濫読が自分をつくっている。

時を経て、福岡の婚約者のところに遊びに行く。こんな私でも結婚相手は見つかった。印刷媒体のデザイン編集者なのだが、古い写真の写真集の仕事を引き受けたもののネガが汚いので修正に時間がかかりそうだと困っていた。

そこで私はネガを丁寧に水洗いし、水滴防止剤をつけて乾かしてみせた。完璧なネガフィルムが復元され、美しいプリント写真ができた。写真部出身が役に立った。その最初の仕事『大崎周水写真集』（葦書房）は福岡の図書館にもあるが奥付に私の名前はない。

その後、出版社でやっていく、という決意をして小社主力商品の「街道シリーズ（九州長州文化図録撰書1～9巻刊行：以後続刊）」を上梓するのは、さらに6年くらい後になる。

高校のころ頭に叩き込んだことはあとからジワジワ効いてくる。

それこそが有意義な高校生活ということなのだと思う。



サビエル高校 14 期生

図書出版のぶ工房 発行人 遠藤順子（旧姓：三戸）福岡市在住

山陽小野田の若者パワー！？ ～殖生てる～



山陽小野田に、新たなパワーが生まれた。それが殖生てるである。

「殖生への賑わいを取り戻したい！」をテーマに殖生地域への活路を見出している。交流人口を増やしたい！をモットーに文化・創造するグループへと成長を続けている。

発足時、令和元年12月であり、メンバーは14名で活動している。メンバーの中には、地域の20代、山口銀行殖生支店、JA職員など多彩なメンバーである。

活動としては、月1回マルシェとミーティングを行っている。場所は、山陽小野田青年の家もしくは殖生漁港(現在までに4回開催実施)

販売しているものは、ハンドメイド、アクセサリ、パン屋等々。

現状ではこだわらず、今後も何か盛り上がるようなものを考え中とのこと。情報発信も魅力的である。

現代の流行であるSNSを使わず、地域の自治会の協力により、回覧板へ開催チラシを載せている。地域の方々へも協力的である。



汐風農園：中野さん

メンバーの中には、農家さんもいる。

汐風農園をしている中野優利さん。

主な品目はほうれんそう“ジャスティス”
を栽培している。

周年栽培している為、水管理等農業に
苦労している。直売所やマルシェで販売

することで、地域の方々へ直接ふれあうことと反応がダイレクトに
得られることに喜びを感じている。今後は、規格外品を野菜パウ
ダーなどの加工品にもっていけると話す。

(文：辻野 智子、中野 稜)

お問い合わせ先

【埴生てる】 久保田さん (090-7542-7488)

【汐風農園】 中野さん (<http://habu-teru.com>)

おすすめの一冊

Think smart

間違った思い込みを避けて、

賢く生き抜くための思考法

著：ロルフ・ドベリー 訳：安原 実津



宗祇は今宿（厚狭）の町に入ると、ここで長光寺の塔婆（五重塔）を仰ぎました。そのあと山道を行き、埴生の浜辺で町長の家に宿を借りますが、宗祇はこの家で「ぞんざいではなく、とても懇切な接待を受けた。」と言っています。

翌朝、宗祇は埴生の浦から船に乗って、長府へと向かいました。

（飯尾宗祇『筑紫道記』より）

【おすすめの1冊】

新日本古典文学大系 51中世日記紀行集（図書）

福田 秀一

（文・写真：香川 真澄）



洞玄寺経塔



洞玄寺本堂

さんようおのだ文芸散歩

俳聖、厚狭の町をゆく

あまり知られていませんが、ここ厚狭の町に、俳句の生みの親で、あの松尾芭蕉より200年以上も前に生まれた室町時代の俳聖：飯尾宗祇（いいおそうぎ）がやって来たことがあります。1480年6月のことでした。宗祇は舟木の町で、

吹きしぐる稲景の雲の山おろし

と癸句を詠んでいます。これは、山から来る雨風が稲穂に吹きつけているさまを写生したもので、宗祇はこの句について「（この土地の）旧友があまりにも厚くもてなしてくれたので言葉では詠みづらい、ここは友へのお礼は抜きで、見たままの景色を写すに留めておこう」と感想を述べています。

海底に眠る坑道青山河

松山 大耳

緋のカンナ炭位ありしこのあたり

白石 千代

本山岬音して落つる秋夕日

藤井 游歩

【竜王山】

小野田地区の人々の心のふるさととも言える山である。標高136メートル、三方を海に囲まれている。四季折々種々な見所があり、春は一万本の桜、夏は産地に育成するヒメボタル、秋には「旅する蝶」アサギマダラの飛来がある。中腹には設備の充実したオートキャンプ場があり、珍しい山野草を観察する楽しみも味わえる。また耳観音や子持御前といった、訪れる人に不思議な力を授けるという信仰の力を持つ山にもなっている。

三方の海の朧や峰火台

山本 桂子

虹などもここから見たし竜王山

植高 公明

瀬戸の海風ぎ竜王の黒揚羽

森本 眞智子

約束よアサギマダラは蒼穹へ

平島 照雄

(おすすめ一冊) 幕末「長州」史跡散歩―一坂 太郎

(文・写真：山本 桂子)

小野田地区

【浜五挺唐樋・当嶋八幡宮・高泊神社】

現在の市役所・小野田駅・市民病院など、今の小野田地区の中心となっている所は、かつては高泊湾という海だった。その広大な海を埋め立てたのが高泊開作である。その当時の萩藩挙げての大事業の遺構が「浜五挺唐樋」であり、高泊神社である。浜五挺唐樋は寛永八年（1668年）に作られた潮止め排水門で、国指定史跡となっている。高泊神社はかつて湾の中にあつた龍王島に干拓の完成を記念して建立された。当嶋八幡宮は五挺唐樋のすぐ側の山がみにあり、干拓成功祈願の神社であつた。

浜五挺唐樋に淀む春の潮

古びたる芭蕉の句碑や落椿

干拓は毛利三白豊の秋

高泊神社空より芽吹きをり

益田 満寿美

石田 妙子

段田 晶雄

香川 真澄

【本山岬】

焼野海岸を南下したところにある周防灘に突き出た岬である。その先端には、「くぐり岩」と名付けられた岩が立っている。干潮の時のみ人が立つてくぐり抜けることのできる穴を抱いた奇岩である。長い年月と海が作り出した芸術品である。またかつてこの地は海底炭鉱の町であつた。昭和38年に閉山するまで炭坑が立ち並び、人の出入りの多い所であつたという。

岬なる古りし奥つ城夏薊

中尾 十夜



寝太郎の里の疎水や風光る

五月晴寝太郎民話町おこし

若景風寝太郎像は南向き

寝太郎像歩けとばかり青嵐

落鮎に寝太郎堰てふ難所あり

【物見山公園】

厚狭市街地近くにある小高い丘であり標高72.5メートル。その名の通り平らを頂上からは厚狭盆地が見渡せ、そこには護国神社が建てられている。春には桜、初夏には菖蒲、夏のキャンプ場では小鳥のさえずりが楽しみ、憩いの場として親しまれている。

ふるさとの山河親しも初景色(石碑)

護国社に誰をか待たん桜道

物見山景桜映えて鎮魂碑

物見山慰霊塔映ゆ百日紅

二歩 志芳

原田 照子

長井 幸江

小河 充子

荒木 克枝

重村 蒼生

千々松 八重子

竹野内 進

西山 輝子



山陽小野田歳時記

山陽地区

【松嶽山】

市内で一番の高峰標高334メートル。美祢市に隣接する。その山容は地元の県立厚狭高校の校歌に「仰ぐも高き　その峯をおのが理想に」と歌われている。またその山の七令目には古い歴史と格式を持つ、真言宗正法寺がある。

護摩焚きの鼓のやみしときほどぎす（石碑）

松嶽のすべてを染める椎若葉

松嶽の峰へと流る天の川

櫓田の果てに母なる松嶽山

松岳山すがた隠して時雨けり

松岡 伊佐緒

片山 徹

岡村 一舟

茅壁 滋子

三浦 裕子

【寝太郎伝説】

厚狭地区には「三年寝太郎」という有名な民話がある。3年3ヶ月、仕事もせず寝て暮らしていた男が、ある時急に使命感に目覚め、厚狭川から水を取る堰と灌漑用の水路を作り広大な荒地を美田に変えたという伝説である。神社や像など物語ゆかりの遺跡も数多く残っている。



紙面で紹介した箇所



【図書館創発会議スタッフ募集中！】

「創発」とは、様々な人々が集い、アイデアを出し合いながら、新しいしくみや 働きを創出すること。

図書館という場を活用して、新しい「何か」を一緒に 創っていきませんか。

スタッフは随時募集しています。「とっとこ山陽小野田」取材スタッフも募集中！

お問い合わせは、山陽小野田市立中央図書館まで。 TEL / 0836-83-2870

地域深掘情報誌 第3号

「とっとこ山陽小野田」

【編集・発行】図書館創発会議

(山陽小野田市立中央図書館内)

【発行年月日】2021年6月30日

【編集委員】香川真澄、田中信、辻野智子、まっし、

網都堀洋美、山田幸司、山本安彦

【協力】

【表紙写真】場所／焼野海岸 撮影／友田恭太 モデル／杉田佳穂